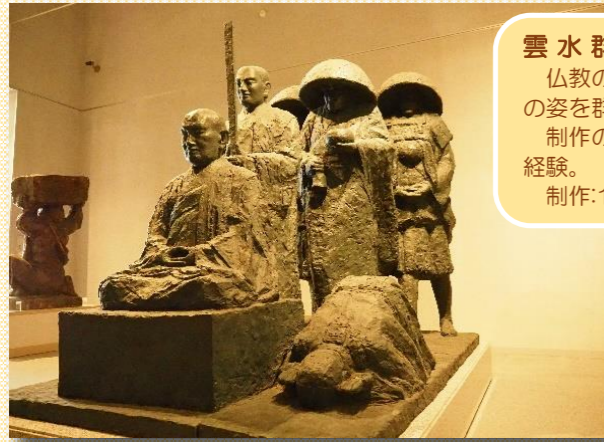


# まちなか美術館への誘い ～矢崎虎夫の世界～ 紹介編

いざな

茅野市で  
生まれた  
彫刻界の巨匠  
名誉市民

茅野市公民館では、地域の宝物や魅力を見つけたり再発見をしたりしながら作成する「お宝マップ」を提案しています。  
令和4年度の学習専門委員会では、茅野市に生まれ、世界的な彫刻家として活躍し、茅野市名誉市民（2人目）に選定された「矢崎虎夫」氏に注目し、多くの作品を間近で鑑賞できる「茅野市が生んだお宝彫刻家」として学習し、その内容をリーフレットにまとめました。  
各地域での学習活動などの参考にできれば幸いです。  
作成：茅野市公民館 学習専門委員会 令和5年3月



**雲水群像**  
仏教の修行にいそむ7人の修行僧の姿を群像として表現した作品。制作のために福井県永平寺で修行を経験。  
制作:1971年(昭和46年 67歳)



**阿修羅Ⅲ**  
体の一部に穴を空けた作品の象徴。仏教と現代彫刻との融合。  
制作:1965年(昭和40年 61歳)

## 矢崎虎夫氏とは

明治37年7月25日生まれ～昭和63年9月24日逝去（享年84歳）  
芸術活動一筋の人生を歩まれ、日本彫刻界の巨匠として国内外に認められるとともに、市の芸術文化の向上にも多大な貢献をされた。  
昭和56年までの間に5回に亘る紺綬褒章と、昭和57年に勳四等瑞宝章を叙勲し、同年12月には茅野市名誉市民（2人目）の称号が贈られた。  
同氏の作品は、パリ・ヴァンセンヌ公園の「雲水群像」、国立近代美術館の「托鉢」、第33回国民体育大会のモニュメント「やまびこ郡像」、尖石縄文考古館の「縄文の手」など多数あるほか、茅野市の蓼科高原美術館 矢崎虎夫記念館に数多く展示されている。  
（文・写真：茅野市役所ホームページから）



## 矢崎虎夫氏の経歴

この面に画像掲載している作品は、「矢崎虎夫記念館」で撮影許可を受けたものです。

- 明治37年（1904年）長野県諏訪郡永明村（現茅野市市の塚原）に生まれる
- 大正12年（1923年）諏訪中学校（現諏訪清陵高校）卒業と同時に彫刻家の平櫛田中（ひらくしてんちゅう）氏に師事
- 昭和4年（1929年）第16回日本美術院展に初出展、初入選する
- 昭和21年（1946年）第1回日展入選の「パリー島の女」を政府が買い上げ
- 昭和39年（1964年）渡欧、フランスのパリ市でオシップ・ザッキン氏に師事
- 昭和40年（1965年）パリ市にて個展開催
- 昭和41年（1966年）日府展で雷電像が文部大臣賞受賞
- 昭和45年（1970年）EXPO'70に「平和観音像」出展
- 昭和48年（1973年）パリ市ヴァンセンヌ公園に「雲水群像」建つ
- 昭和56年（1981年）長野市に浅川水害鎮魂のため「聖観世音菩薩像」建つ
- 昭和57年（1982年）勳四等瑞宝章叙勲 茅野市名誉市民（2人目）となる
- 昭和63年（1988年）逝去 享年84歳
- 平成3年（1991年）蓼科高原美術館 矢崎虎夫記念館開館

## 矢崎虎夫氏の 生き立ちや人物像

### （同氏の二女有賀敬子氏の講演内容から）

農家の二男として生まれる。祖父（虎夫の父）は厳格で、祖母は優しいかった  
小学生時代：托鉢僧についていき、隣村まで行ってしまった  
中学生時代：絵画に興味があり、絵ばかり書いていて、絵師になりたかった  
大学生時代：東京美術学校（現東京芸術大学）彫塑（ちようそ）科に入学  
夏休みに新潟の禅寺で修行体験し、仏教の教えを学ぶ  
東京都下高井戸桜上水の自宅のアトリエで制作開始  
優しい父親だったが、作品作りに関してはとても厳しかった  
帰宅時に自宅から「のみ」を打つ音が聞こえると緊張して家に入った  
太平洋戦争時：東京から永明村に疎開（都市部の空襲からの避難）  
塚原の近隣住民とも交流し、御柱祭にも参加した  
昭和27年：48歳 法隆寺大火で金堂北西の雲射木の彫刻復元に取り組む  
仏教を身近に感じて大きな影響を受ける  
昭和39年：60歳 オシップ・ザッキン氏に師事し、現代彫刻と出会う  
師匠のザッキン氏から「もう一度日本文化を見直してごらんさい」との言葉を受け、幼少期から触れてきた仏教と現代彫刻を融合させ、矢崎虎夫の世界が開花した  
体の一部に穴を空け、えぐることでマイナスの空間を作り、作品にプラスの念が込められて力強さが表現されている

## 矢崎作品の根幹

仏教哲学の学び  
師匠ザッキン氏との出会い  
日本文化と現代彫刻の融合



**パリでの個展ポスター**  
昭和40年にパリで開いた個展では、代表作品の阿修羅を掲載したポスターが、貼るたびに盗まれるほどの人気を博した。

この資料は、令和4年8月23日に矢崎虎夫記念館で開催された茅野市中央公民館主催茅野学講座「父矢崎虎夫が歩んだ人生と彫刻の世界」の有賀敬子氏（矢崎虎夫氏の二女）の講演内容を参考にしています。

## なるほど情報

**茅野市名誉市民とは...**（令和4年現在で3名選定）  
市民又は市にゆかりの深い者で政治、経済、教育、文化、社会その他各般にわたり国家の繁栄に功績があった者及び市の名誉を高めた者で、市民の尊敬の的として仰がれる者…（茅野市名誉市民条例第1条から）  
1人目  
宮坂英弐氏（考古学者 昭和42年選定）  
茅野市豊平出身  
1930年(昭和5年)独力で尖石・与助尾根遺跡を発掘。縄文時代中期の集落研究の基礎を築いた。  
3人目  
小平邦彦氏（数学者 昭和63年選定）  
東京都出身、父親が茅野市米沢出身の農水省官僚  
1954年(昭和29年)数学のノーベル賞といわれるフィールズ賞を日本人で初めて受賞のほか、著名な賞を数々受賞。

**ラクダを曳く人**  
砂漠の厳しい環境で生活する人々を表現した荒々しく力強い作品。  
制作:1975年(昭和50年 71歳)



**托鉢（たくはつ）**  
仏教の哲学は矢崎作品の原点。



**能姿の空間（連獅子）**  
顔や胸を空間にしてマイナスの空間をつくることで、作品にプラスの念が込められる。



**母子像**  
モデルは矢崎氏の娘と孫たち。力強い作品が多い中で、家族愛を表現したやさしさあふれる作品。



矢崎虎夫の作品を堪能したいとき  
蓼科高原美術館  
矢崎虎夫記念館 へどうぞ  
(TEL0266-67-6171)

茅野学講座「父矢崎虎夫が歩んだ人生と彫刻の世界」の有賀敬子氏の講演内容はこちら  
ビーナネットChino



問い合わせ先：茅野市中央公民館  
茅野市宮川4552-2  
TEL：0266-72-3266